

令和4年度 岩内第一中学校 後期学校評価 結果

8割以上を 5ポイント以上上昇を 青字
 7割未満を 5ポイント以上下降を 赤字

令和5年3月13日

で表しています。

本年度の重点教育目標 「自分の将来を描き、主体的に発信できる生徒の育成」

- ①「自分の将来を設計する力を育てる」
～教育課程の効率的な編成・実施等～
- ②「自ら学び、主体的に発信するための知識・技能を育てる」
～主体的な学習習慣と、基礎・基本等の確実な定着～
- ③「自信が持てる心を育てる」 ～自己肯定感、自己有用感の高揚～
- ④「自らの判断で活動できる力を育てる」 ～自己決定力の育成～
- ⑤「職員の心身の安定を図る組織をつくる」
～個の力が活かされる組織力～

	教職員自己評価	評価	保護者評価	評価	生徒評価	評価	成果と課題	学校関係者評価	
								自己評価の適切さ	成果と課題の適切さ
自分の将来を設計する力の育成	私は、総合的な学習の時間で、生徒が自分の将来や職業について考える場面の設定を意識して取り組んでいる。	93	お子様は、学校生活の中で、自分の将来や職業について考えられるよう成長してきている。	69	総合的な学習の時間で、自分の将来や職業について考える場面がある。	94	・過去の自分と現在の自分を比較することで成長を実感し、自分の将来や職業、生活について考えられる機会として、学校ではキャリアパスポートの取組をしている。キャリアパスポートには、現在の自分を振り返って生徒が記入した後、各家庭でコメントをし、再び学校に持ってくるもので、高校にも引き継がれていく。前期より保護者の評価が上がっている（生活や将来以外）が、まだ7割に満たないため、キャリアパスポートを活用しながら教育活動を継続していく。	B	B
	私は、特別活動で、キャリア形成と自己実現を図ることを意識して取り組んでいる。	100	お子様は、学校生活の中で、自分の生活や将来を考えられるよう成長してきている。	73	学級活動や生徒会活動、学校行事で学んでいることが、自分の生活や将来に生きるだろうと思う。	88		B	B
	私は、「資質・能力の三つの柱」「カリキュラム・マネジメント」など、新しい学習指導要領における重要な事項を意識して教育活動に取り組んでいる。	86	お子様は、できるようになったこと、学んだことに自信を持ち、を日常生活に生かそうとしている。	83	何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶかを考えながら授業に臨んでいる。	91		B	B
主体的に発信するための知識・技能の育成	私は、生徒が自ら学習に向かおうとする姿勢作りと、生徒の学習用具持ち帰りの指導に努めた。	71	お子様は、自分から家庭学習に取り組んだり、家庭学習の内容を考えて家庭に持ち帰る学習用具を決めたりしている。	71	自分から学ぼうとして授業に臨んだり、家庭学習の取組を考えながら学校に置いて帰る物と持ち帰る用具を決めたりしている。	77		A	A
	私の校内研修の取組は、自分自身の授業改善に直結している。	93					・個に応じた指導については、教師と生徒・保護者の評価が大きく乖離している。生徒・保護者が求める個に応じた指導と、教師が感じている子に応じた指導を同じくする取組が必要と考える。学習のアンケートにそういった項目を設定する等、何らかの取組を検討していく。	B	B
	私は、基礎・基本の定着のために、個に応じた指導等を工夫しながら教科経営をしている。	100	お子様は、学校の授業等において、個に応じた指導を受けていると感じる。	57	授業や放課後学習などにおいて、わからないことなどを先生に質問しようと取り組んでいる。	55		C	B
自信がもてる心の育成	私は、自己評価・他者評価などを通し、自己を振り返る学年・学級経営計画の立案に努めた。	84	学校は、お子様のよさや仲間のよさを認め合う教育活動を位置付けている。	87	学校生活を通して、自分のよさや友だちのよさを認め合う場面があると感じる。	89	・前期と比較すると、このカテゴリでは全体的に生徒の評価が下がっている。自分の日々の成長や、一緒に生活している仲間の成長を感じることは難しいかもしれないが、生徒一人ひとりを認め励まししながら自己理解させ、自己肯定感・自己有用感を高める取組に、学校として粘り強く取り組んでいく。	A	A
	私は、授業や行事など、日常生活に直結した指導計画の立案に努めた。	100	日常の授業や学校行事を通して、お子様の成長を感じることができる。	91	学校生活を通して、自分やクラスの成長が感じられる。	87		A	A
	私は、内容項目を押さえた道徳の授業や日常の道徳教育を行った。	100	学校生活を通してお子様の道徳性の向上を感じる。	88	道徳の授業や学校生活を通して、自分の心が成長していると感じる。	85		A	A
	私は、生徒の成功体験の機会設定を行うことによる自己理解を深めさせる指導に努めた。	100	お子様は、自分に自信がもてる心が備わってきている。	78	自分には良いところがあると思う。	80		B	B

達成感を実感できる機会の充実 自らの判断で活動し、	私は、校内外における「一中生挨拶」の指導・強化に努めた。	100	お子様は、校内外で進んで挨拶をしている。	81	校内外で積極的に挨拶をしている。	85	・生徒の回答で、「悩みがあれば～」「学校の感染症対策で～」の項目が、前期と比較すると大きく下がっている。生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている様子だが、一方で、安全・安心な学校生活を送ることについて教師と生徒の評価に乖離があることを的確に受け止め、丁寧な指導を心がける等、改善に取り組んでいく必要がある。	B	B
	私は、実践に導く生徒の自己判断・自己決定の機会設定に努めた。	100	お子様は、自分で考え、物事を判断している。	88	物事を決めるときは、自分の考えで判断している。	92		A	A
	私は、いじめを発生させない未然防止の取組に努めた。	100	お子様は、いじめは絶対に許さないという考えで生活している。	98	いじめは絶対に許さないという考えで、思いやりの気持ちを大切にしながら毎日を過ごした。	98		A	A
	私は、相談しやすい環境を作る等、生徒が安心して毎日を過ごせるよう努めた。（不登校への対策も含む）	94	学校は、相談しやすい環境を作る等、生徒が安心して毎日を過ごせるようにしている。	87	悩みがあれば先生方に相談するなどし、学校へ安心感をもつことができている。	71		C	B
	私は、生徒や保護者が登校に不安を感じないよう、感染症対策に努めた。	100	学校の感染症対策は、適切であると感じる。	86	学校の感染症対策で、不安なく登校することができている。	78		B	A
教職員の心身の充実	私は、組織としての各種業務運営を確立させることによる個人負担の軽減に努めた。	80					・令和8年度の義務教育学校の開校に向け、教職員がそれぞれの持ち場で町内の学校にかかわりながら連携体制を構築している。次年度以降、小中一貫教育の動きはさらに活発化させる必要があり、岩内町の小中4校の連携体制を更に強化していきたい。	B	B
	私は、各種業務のPDCAサイクルの徹底に努めた。	100						B	B
	私は、小中、中中の連携による体制強化に努めた。	100						B	B
働き方改革につなげる 地域連携	私は、各教育活動の教育課程への位置付けについてその意義を理解し、指導に努めた。	94	学校の各種取組は、その目的や関連性が理解しやすい。	87	学校の取組は、目的やつながりがわかりやすい。	79	・地域との連携は、昨年度に比べ大きく前進している評価となった。一方で、本年度は祭典が実施されたが、子どもたちが地域の方をはじめ外部の方々と接する機会はあまりないようである。CSでは地域と学校の関わりについて話し合う機会も設けており、子どもたちが地域との連携を実感できるような取組を実行していきたい。	B	B
	私は、町教委の「部活動指導のガイドライン」に準じた部活指導に努めた。	100						A	A
	私は、学校運営協議会(CS)を活用するなど地域人材の活用に努めた。	86	学校は、学校運営協議会を活用するなど、地域人材の活用に努めている。	92	地域の方をはじめとする外部の方々と接する機会がある。	54		B	B

◎ 学校評価とは

(前略) 学校は、(中略) 学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。(学校教育法第42条より)

これにより、次の1～3の規定に則り、本校でも学校評価を行いました。以下、学校評価についての説明・補足を記しますので本評価書と併せてご覧ください。

1. 教職員による自己評価の実施

(1) 前期、後期の2回に分け教職員自己評価(以下自己評価)を実施しました。また、関連項目を全校生徒と保護者の皆様にも同様に実施しました。

2. 保護者などの学校の関係者による評価(「学校関係者評価」)の結果公表

(1) 岩内町では、「学校関係者評価」を学校運営協議会委員の皆様に行っていただくことになっています。

(2) 学校関係者評価は、令和4年2月25日(金)第3回学校運営協議会(書面会議)を実施し、承認していただきました。

(3) 学校関係者評価では

① 自己評価の結果の内容が適切かどうか～ 評価書「自己評価の適切さ」

② 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか～ 評価書「成果と課題の適切さ」

③ 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか

④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

等を3段階(A:十分 B:概ね十分 C:不十分)で評価しました。

(4) 結果の公表については

① 自己評価及び学校関係者評価書を岩内町教育委員会に提出

② 自己評価及び学校関係者評価書を学校ホームページに掲載

③ 自己評価及び学校関係者評価書を保護者の皆様に配布

によって行いました。

岩内町立岩内第一中学校
教頭 白井尚史
電話：62-0333